

5分で読める 医療安全ニュース 8期/15号

ちょっと復習、危険予知トレーニング(KYT:Kiken Yochi Training)

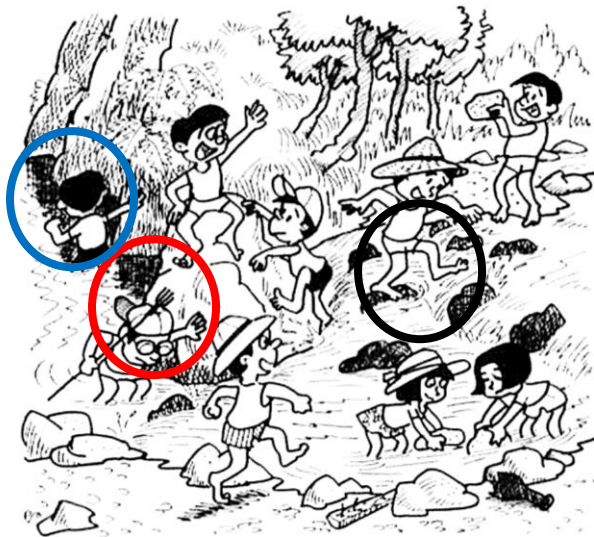


図1：イラストKYTの例



【医療安全】掲載
illustration：島村陶治

図2：医療現場でのイラストKYT(医療安全11号 イラスト：島村陶治)

表1：KYT基礎4ラウンド法はグループワークで進めていきます。第4段階の終了後に全員の合意として、危険のポイントに対し安全確認項目を「指差し呼称」します。そして、「指差し唱和」、「タッチアンドコール」を行い確認します。

| | | |
|------|--------------------------|--|
| 第1段階 | どんな危険が潜んでいますか？ (現状把握) | 状況の中に潜む危険要因(見えるもの、未だ見えないもの)が引き起こす現象を想定し、とどろき意見を出していく。 |
| 第2段階 | これが危険のポイントだ！ (本質追求) | 発見した危険要因のうち、これが重要だと思われる危険を把握して、○印、更に絞り込んで◎印を付け、全員で指差し唱和する。 |
| 第3段階 | あなたならどうする？ (対策の樹立) | ◎印を付けた危険要因を解決するにはどうしたらよいか考え、具体策を出し合う。 |
| 第4段階 | 私たちはこうする (目標設定) | 具体策のうち重点項目を絞り込み、実践するための指差し呼称項目を設定し、指差し唱和とタッチアンドコールで締めくくる。 |

● KYT:危険予知トレーニングとは

1. 危険(キケン)のK、予知(ヨチ)のY、トレーニングのTをとった「危険予知トレーニング」の略称で、昭和30年代に多発した労働災害対策が始まりとされています。
2. 中央労働災害防止協会によると、「職場のみんな(小集団)で“短時間”の“問題(危険)解決訓練”であり、自分で自分の身を守るために行動する前の“労働安全衛生先取り”のための短時間危険予知活動訓練」として実施されてきました。
3. 事故防止には、起きた事故に対する反省やフィードバックと同様に「事故を未然に防止すること」が肝要です。KYTによってリスク感受性を磨き潜在リスクに対し「あれ?」「何か違う?」など気付いたり感じたりできる職員を育成することも事故防止に必要といえます。
4. 潜在している危険(まだ起きていないエラーや事故の可能性)を察知し、事前に防止できる能力を身につけるため、左図1のようなイラストを用い「**用具**」は赤○、「**場所**」は青○、「**人の行動**」は黒○、などチェックしていく「イラストKYT」という方法があります。まだまだたくさんチェックできますね。図2は医療現場でのイラストKYTです。みなさんならこの場面、いくつチェックできそうですか？
3. KYTは、全員参加でチームワークや感受性を高め、みんなで危険を発見し対策を考えあい、わかりあって実行することを体験し、自分自身が潜在リスクの認識とそれを気付けるようになること、察知力の向上が目的となります。

● 医療現場でのKYT活動あれこれ

1. 職員同士が、健康状態を把握し、必要な判断・対応を加える事により安全な業務を実践する「健康問いかけKYT」、チームワークやサポート体制育成に、円陣で手を合わせる「タッチアンドコール」、リスク予測の感性を磨く(上述)「イラストKYT」、経験年数が少ない職員に対し、リーダーが個別に危険予知をしてアドバイスをする「個別KYT」、事故をイメージして一人で実施する「一人KYT」、曖昧な指示を防ぐなど「指示だし指示受けKYT」、問題解決や再発予防の「インシデントレポートKYT」(左表1参考:KYT基礎4ラウンド法)などがあります。

● 4ラウンドが定着すればSKY:Short Time KY)へ

1. KYT基礎4ラウンド法が定着すれば、各部署で時間を掛けずに実践できるSKYがあります。
2. 朝礼や終礼でリーダーが、「今日はこれが重要項目だ!」と思ったことをトップダウンで伝達する方法のことです。以下は1例です。
3. 「接続部を確認していない逆血事故がありました」今日の呼称項目は「ライン全体の確認」です。では唱和します。「ライン全体の確認ヨシ!」。全員で、「ゼロ災でいこう、ヨシ!」